

特別展 内山玲子書展「良寛・貞心尼詩歌の世界」

～凛として艶やかに～

令和7年7月4日(金)～9月28日(日)

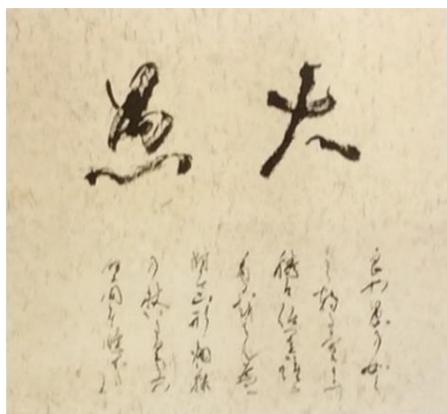
今年は書家 故内山玲子生誕100年。来年(2026)は良寛と貞心尼が長岡市島崎で出逢ってから200年となります。

それに先駆け、関東女流書家の要であった内山玲子氏の屏風「はちすの露・序文」をはじめ、はちすの露をテーマに良寛と貞心尼の詩歌を書き上げた大作9点を公開します。書を志して60年の節目にあたる2005年に東京銀座画廊・美術館で個展を開催された際の作品を当美術館に寄贈されました。8月には内山玲子作品贈呈に尽力していただいた毎日新聞社芸部編集委員や環太平洋大学教授などを歴任された荒井魏(たかし)氏による講演会を計画しております。

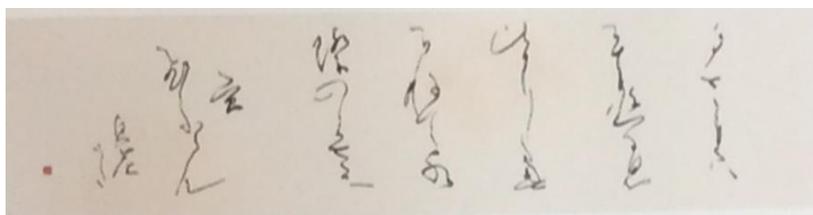
・内山玲子略歴 1925年北海道生まれ、1946年札幌で松本春子先生に師事。1955年毎日書道展かな部門賞受賞。1958年上京して仲田寛一先生に師事。2006年毎日書道顕彰(芸術部門)賞、2007年第48回毎日芸術賞など受賞。各種展覧会審査員歴任。創玄書道会、(財)毎日書道会、かな書道作家協会などの顧問、かつら会主宰。 2022年97歳で逝去。



内山玲子先生



大愚 額装
良寛の如く 印可の偈
たや 愚 騰 任
たか 寛 の 々 道
誰か 看る 形を 藤ん 為
誰か 山を 爛得 間 午
杖に 附す 処の 壁間 午
睡眠 たり



貞心尼歌碑「夕されば」(信濃川 蔵王橋右岸)

額装 夕されば
夕さればもゆる思いに
たえかねて水際の草に
蛍飛ぶらん
貞心尼うた

内山玲子 展示作品紹介

十曲屏風半双「はちすの露」、二曲屏風一双「はちすの花」、二曲屏風半双「花心なくして」、襖「春夏秋冬」、四曲屏風一双「戒語」、額装「春のはじめ」、額装「尊しや」、額装「夕されば」、額装「印可の偈」

良寛と貞心尼 リレー講演会 長岡会場

期日 8月23日(土) ・参加費無料 / 事前申込・良寛の里美術館・☎0258-74-3700 / 定員先着50名

演題 『戦後八十年 元原爆記者が良寛に託す思いとその愛』

講師: 荒井魏(たかし)

会場: 「良寛の里美術館」体験室

時間: 講演会13:30～14:30

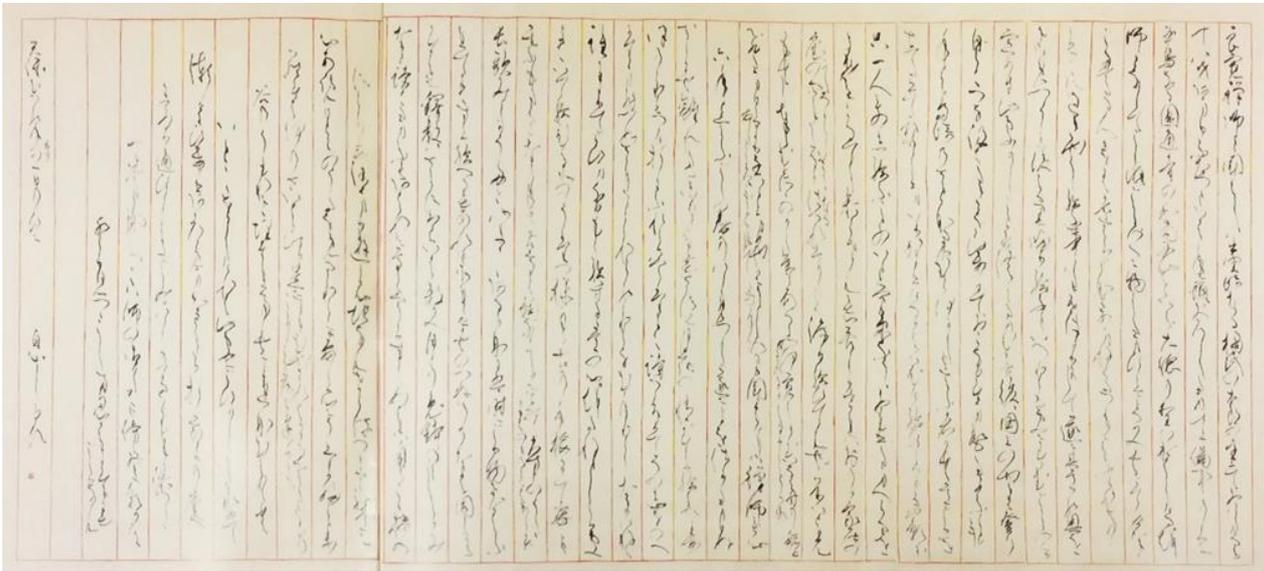
※講演会終了後荒井講師より

内山玲子展の解説有(約30分)

定員: 50名

講師紹介

1945年生。東京都出身。毎日新聞社編集委員、敬和学園大学客員教授、環太平洋大学教授・図書館長などを経て現在、文芸評論家、日本文化社会学会会長。良寛研究で早稲田大学から人間科学博士号を授与された後、毎日文化センターで二十数年、良寛講座を継続開講している。『良寛の四季』(岩波書店)、『天下人の自由時間』(文春新書)など著書多数。2007年内山玲子氏の作品寄贈に尽力された。



十曲屏風半双「はちすの露・序文」 (サイズ 大作 2.4m×5.5m)

蓮の露

良寛禅師と聞こえしは出雲崎
なる橋氏の太郎の主にておは
しける

天保むつのとし五月の

ついたちの日に

真心しるす



富山県高岡市 鋳物師 石黒孫七作
「良寛・貞心尼対面座像」 良寛の里美術館

春夏秋冬

・春の野にさける童を手につみて
わがふるさとをおもほゆるかも
・夏草はこころのままにしげりけり
われ庵せんこれのいほりに
をみなえし紫苑なでしこさきにけり
・今朝のあさげの露にきほひて
冬がれの薄尾花をしるべにて
尋めて来にけりしげの庵に



襖「春夏秋冬」



額装
尊しや
祇園精舎の
鐘の聲
諸行無常の
夢ぞ
さめける



熊谷幸太郎作
木彫「良寛さまと子供たち」
良寛の里美術館

良寛の里美術館

〒949-4525 新潟県長岡市島崎3938

TEL:0258-74-3700 FAX:0258-74-3702

- ・開館時間 午前9時～午後5時
- ・休館日 12月25日～1月3日
毎週月曜日(月曜が祝休日の場合はその翌日)
※展示替え期間は休館
- ・入館料 大人500円(団体400円)小人300円(団体200円)
※団体料金(20名様以上)
- ・入館料割引 出雲崎町良寛記念館、燕市分水良寛史料館
いずれかの入館券の提示で100円割引。